

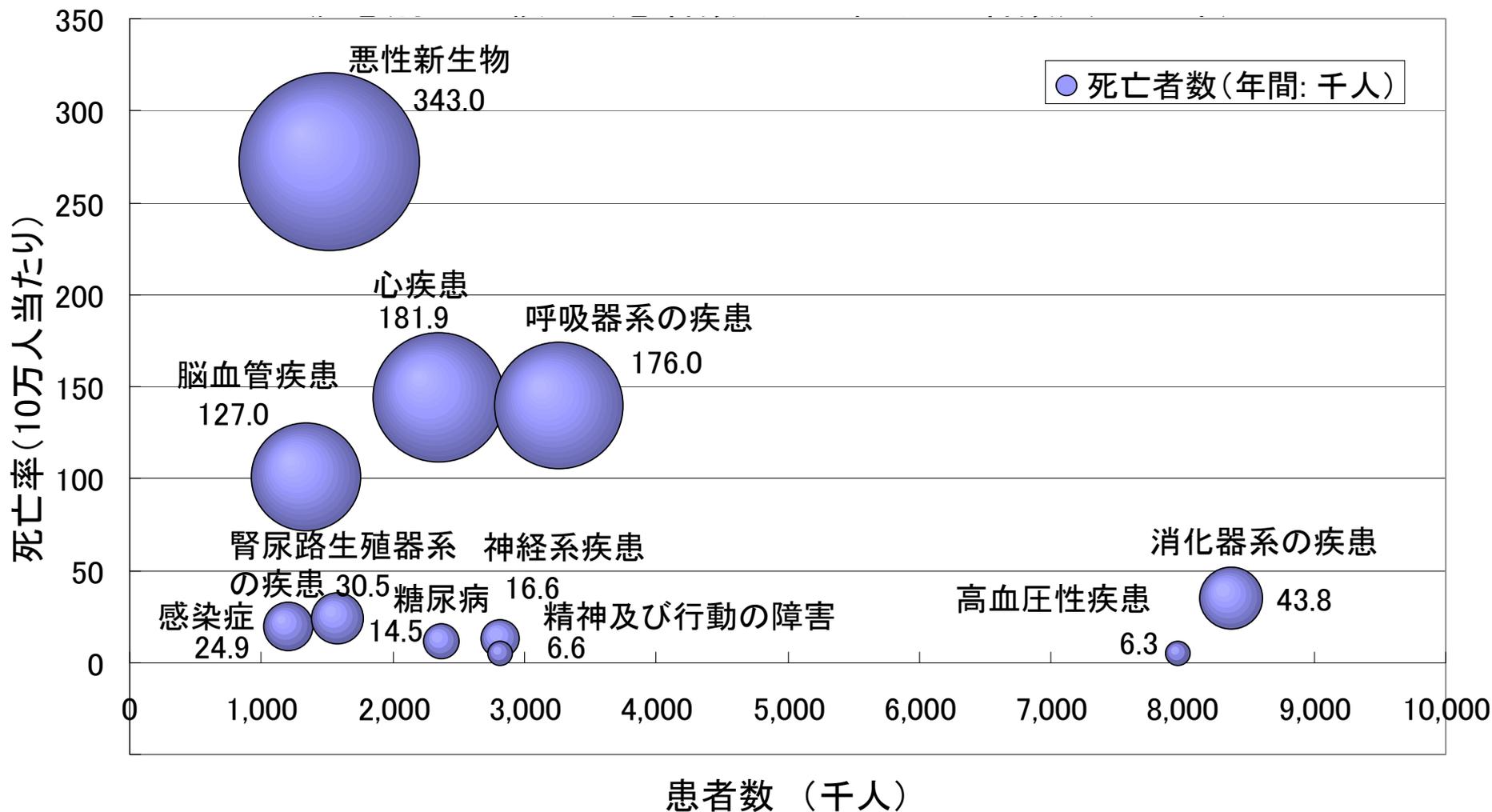


# 第2回 ライフ・イノベーションタスクフォース データ集

2010年4月13日

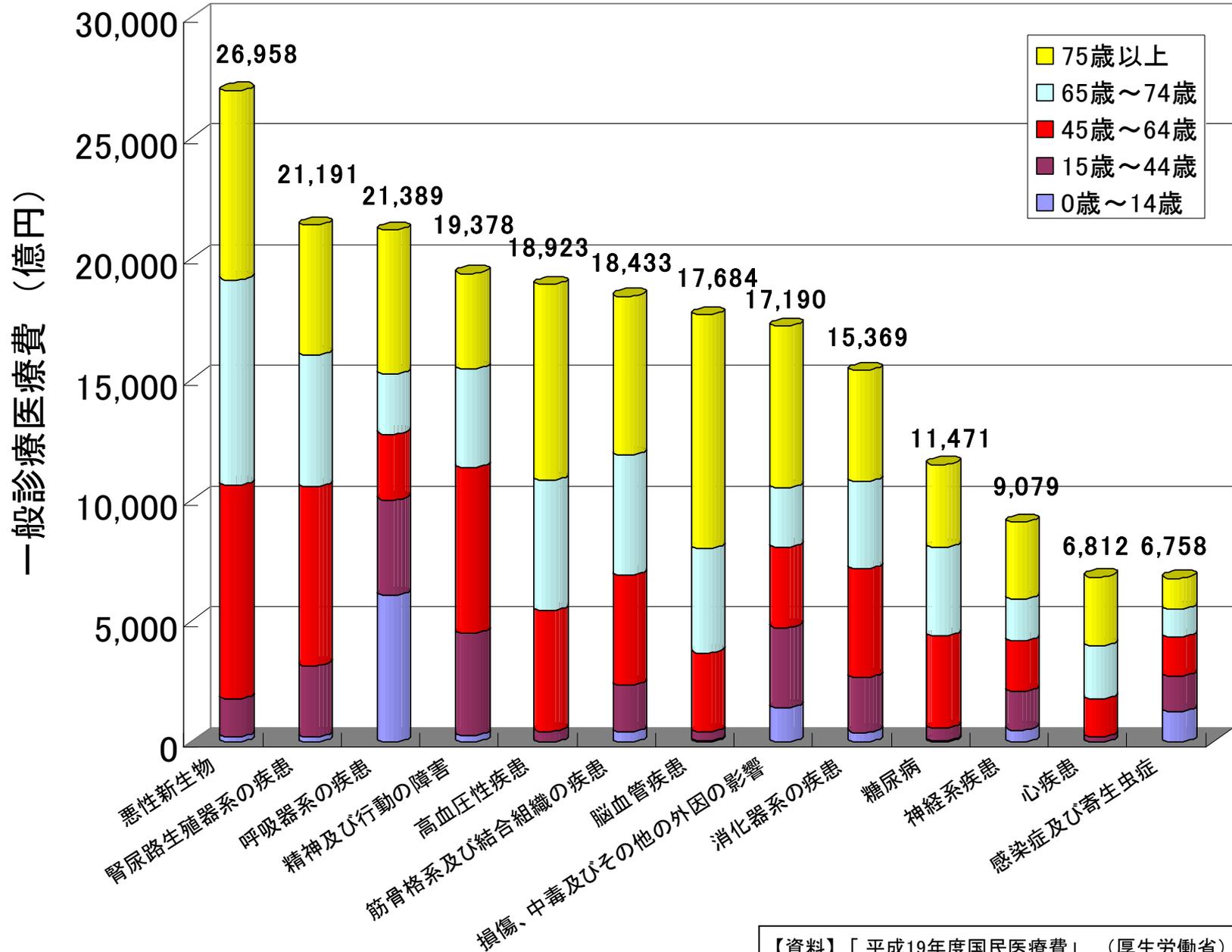
内閣府

# 疾患別の比較-1 (患者数/死亡率/死亡者数)



【資料】患者数: 「平成20年患者調査」 (厚生労働省)  
 死亡率: 「平成20年人口動態統計(確定数)の概況」 (人口10万対)  
 死亡者数: 「平成20年人口動態調査」 (厚生労働省)

# 疾患別医療費 (2007年度)

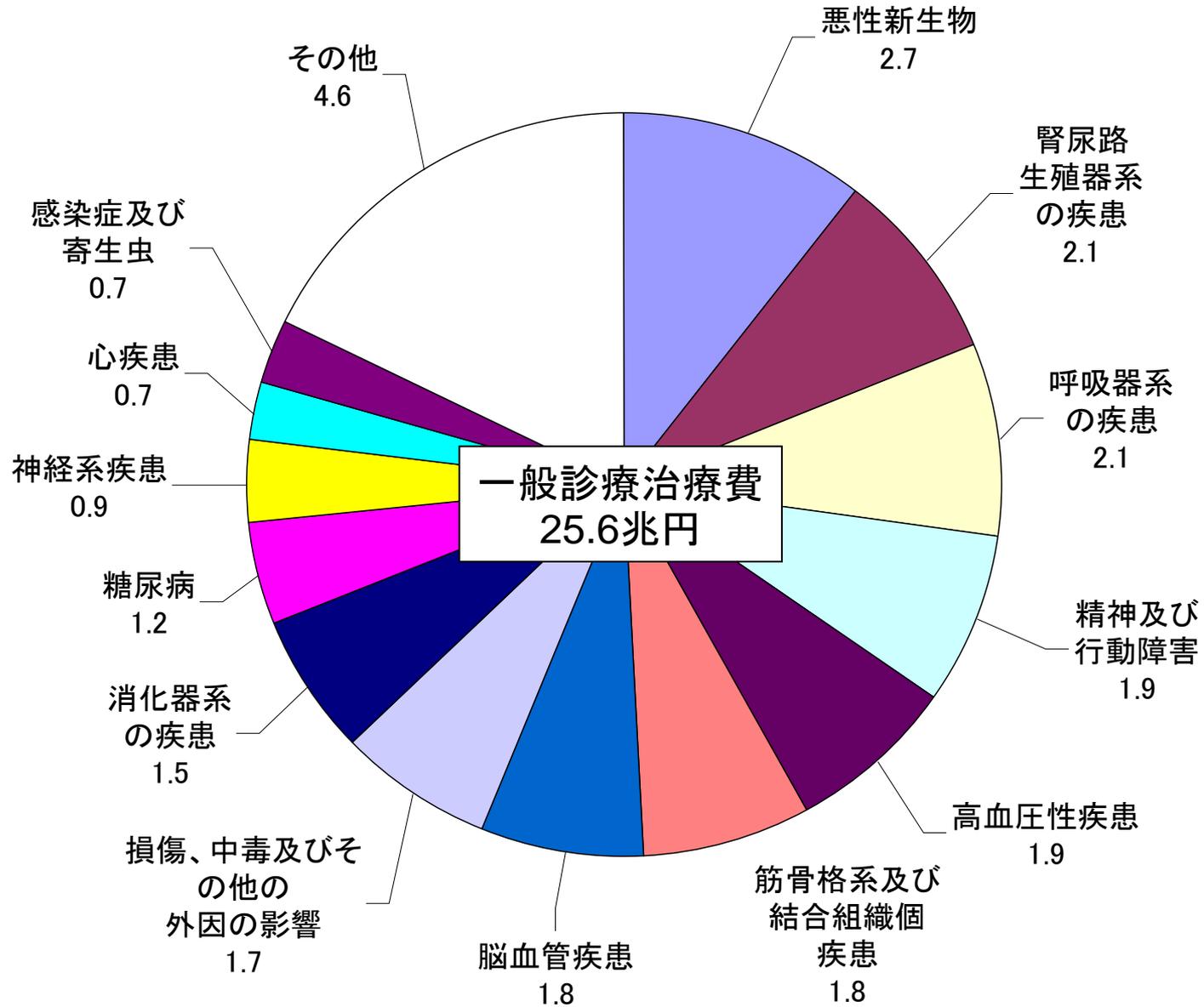


【資料】「平成19年度国民医療費」 (厚生労働省)



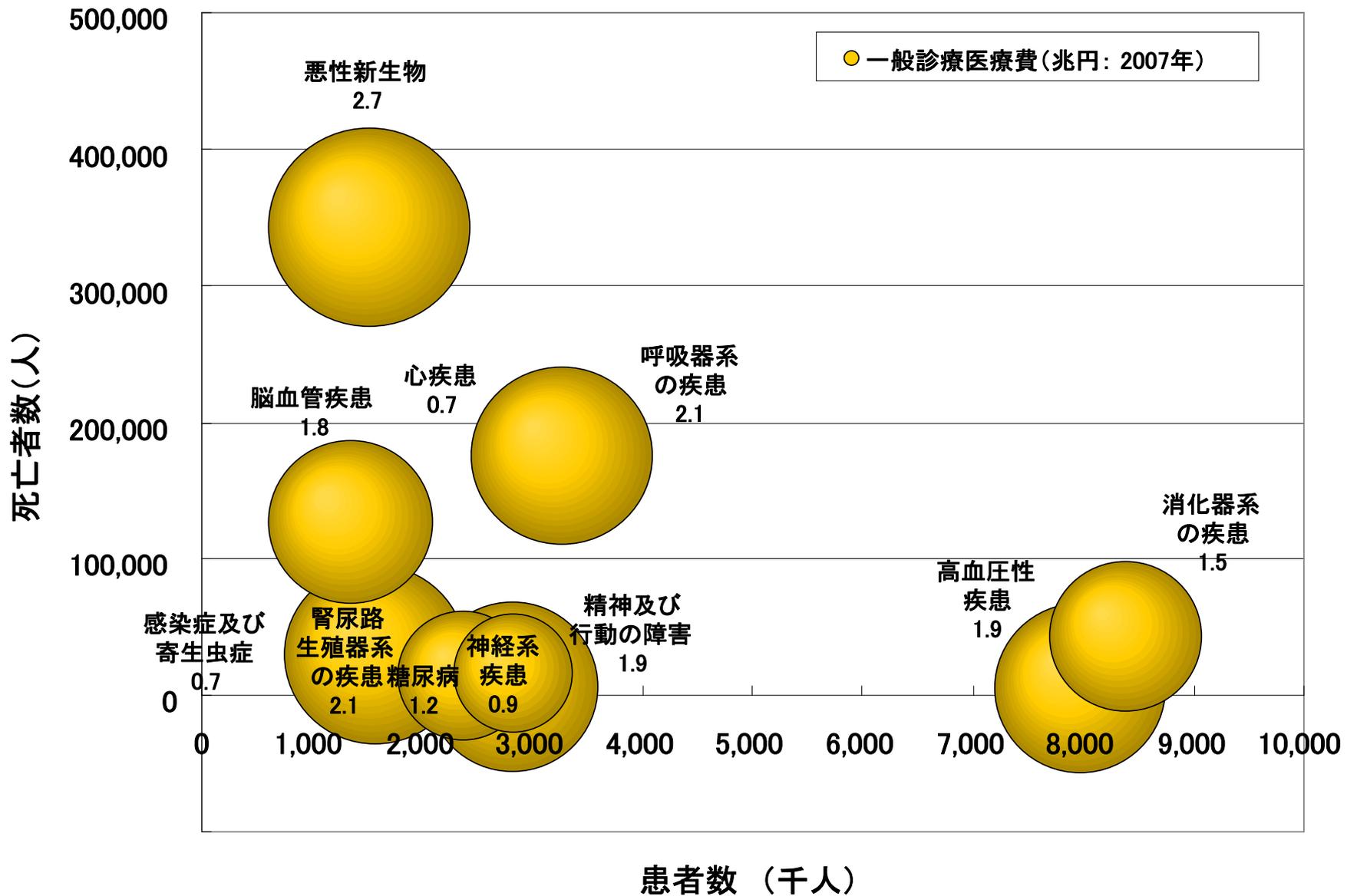
# 疾患別医療費（2007年度）

単位：兆円

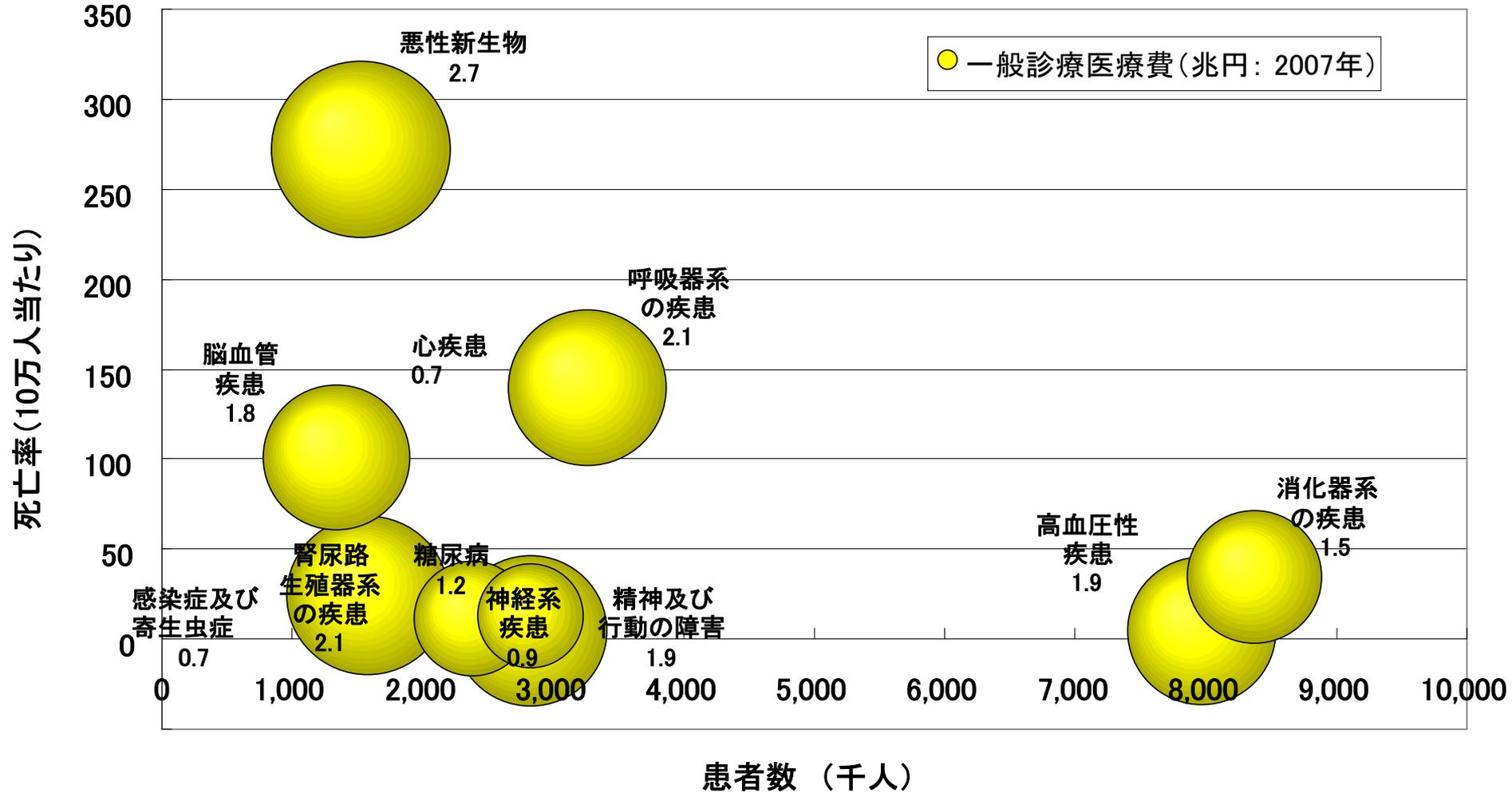


【資料】「平成19年度国民医療費」（厚生労働省）

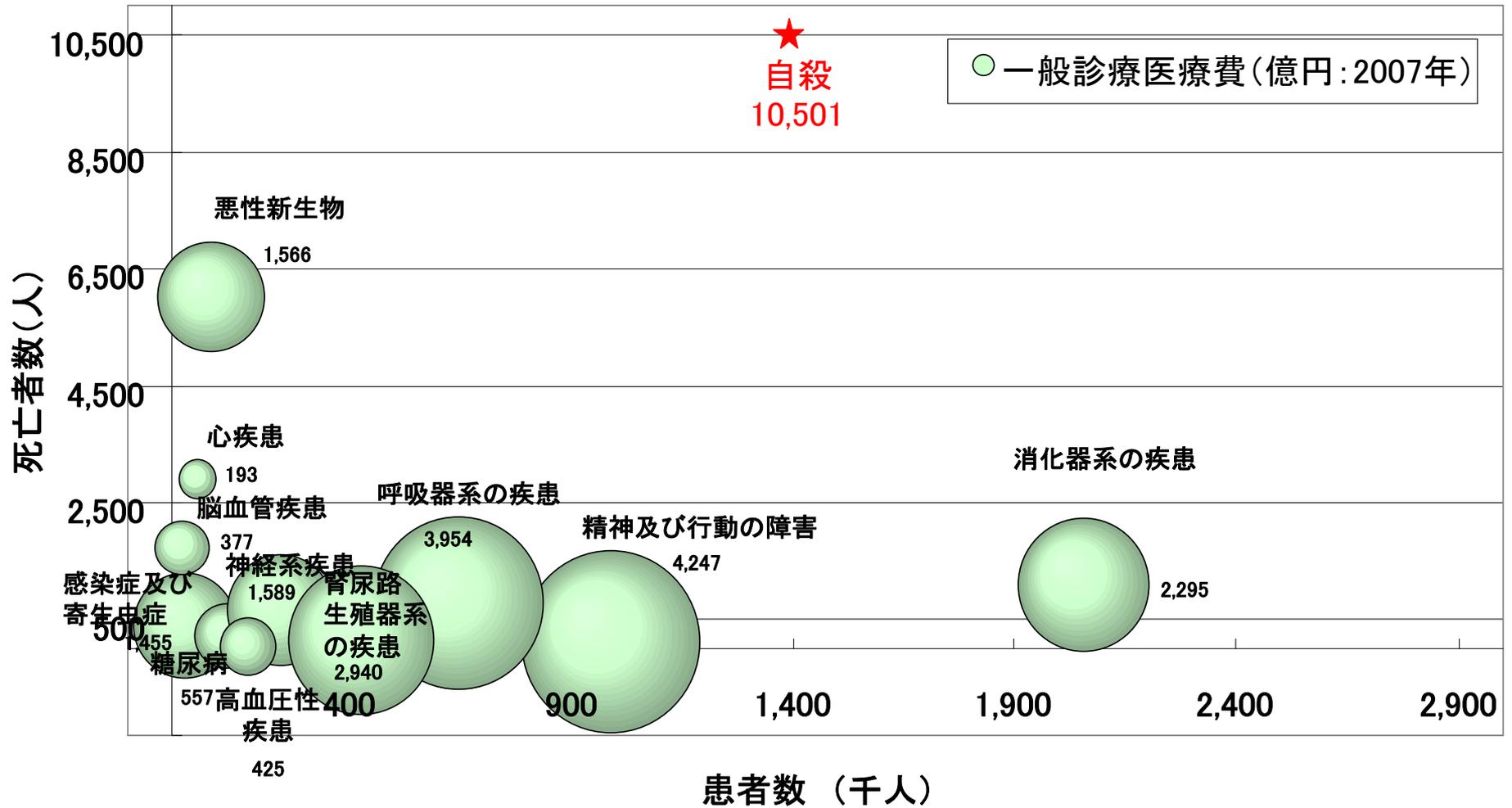
# 疾患別の比較-2(患者数/死亡者数/医療費)



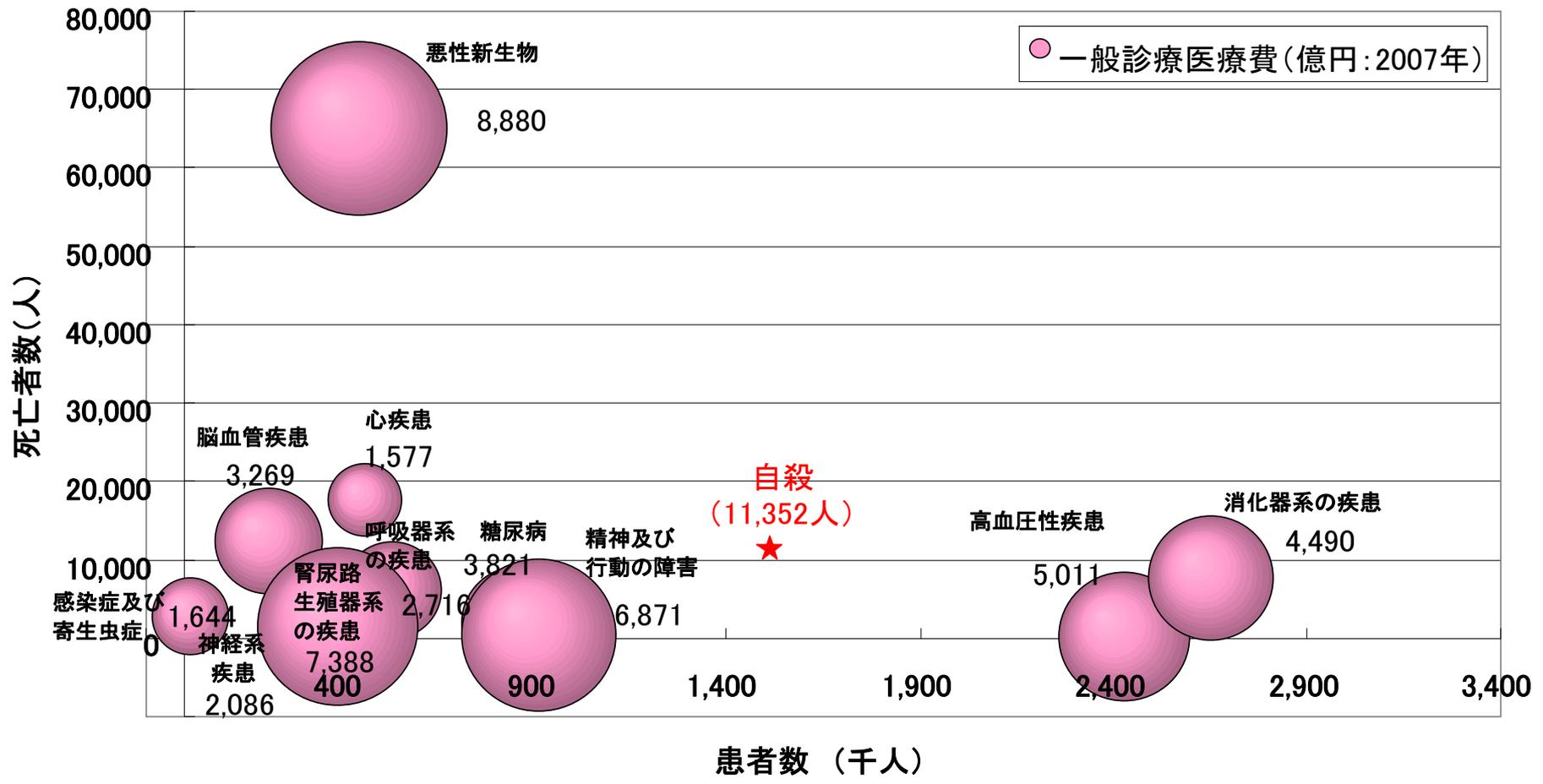
# 疾患別の比較-3(患者数/死亡率/医療費)



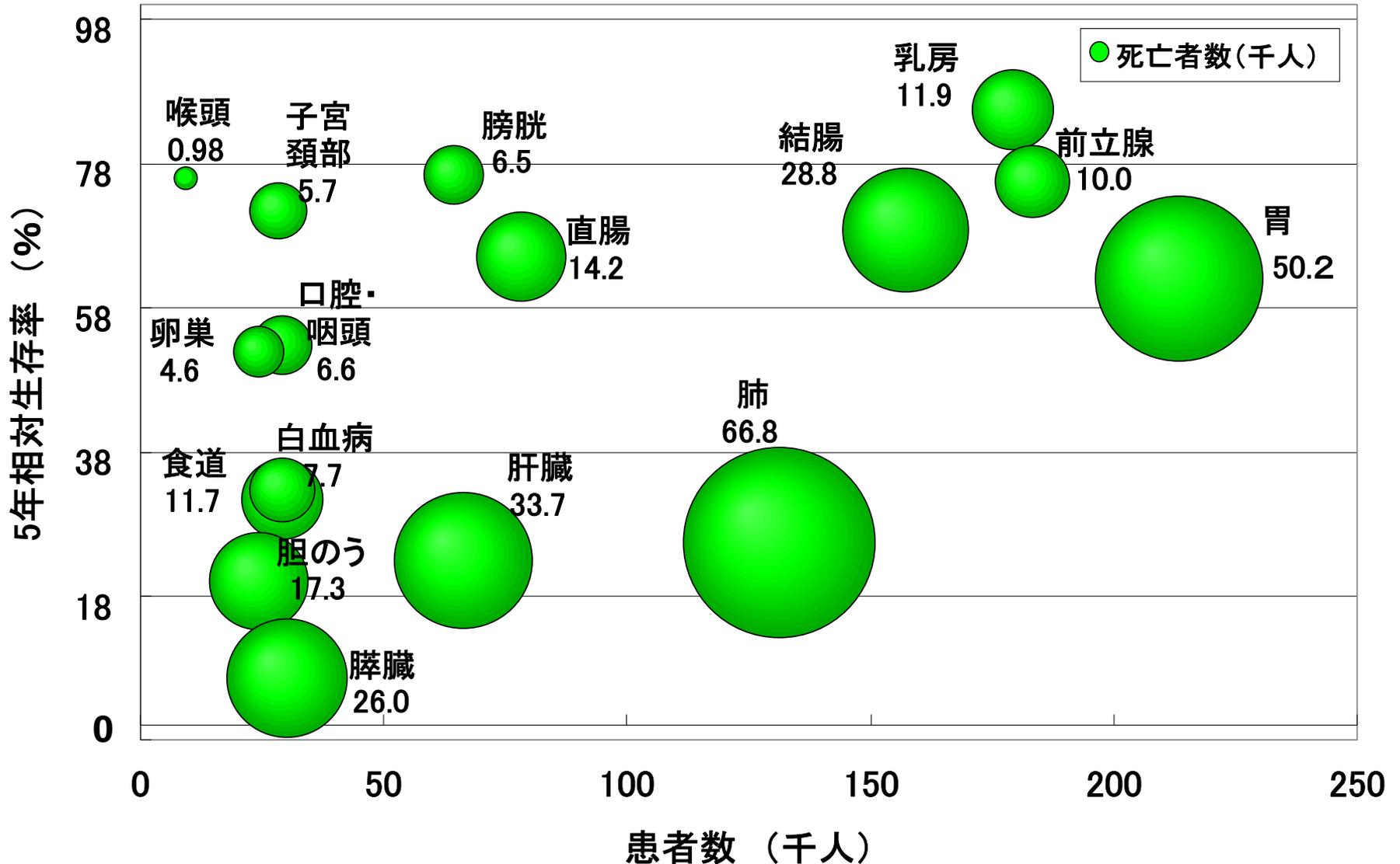
# 疾患別の比較-4 “年齢15歳～44歳”(患者数/死亡者数/医療費)



# 疾患別の比較-5 “年齢45歳～64歳”（患者数/死亡者数/医療費）

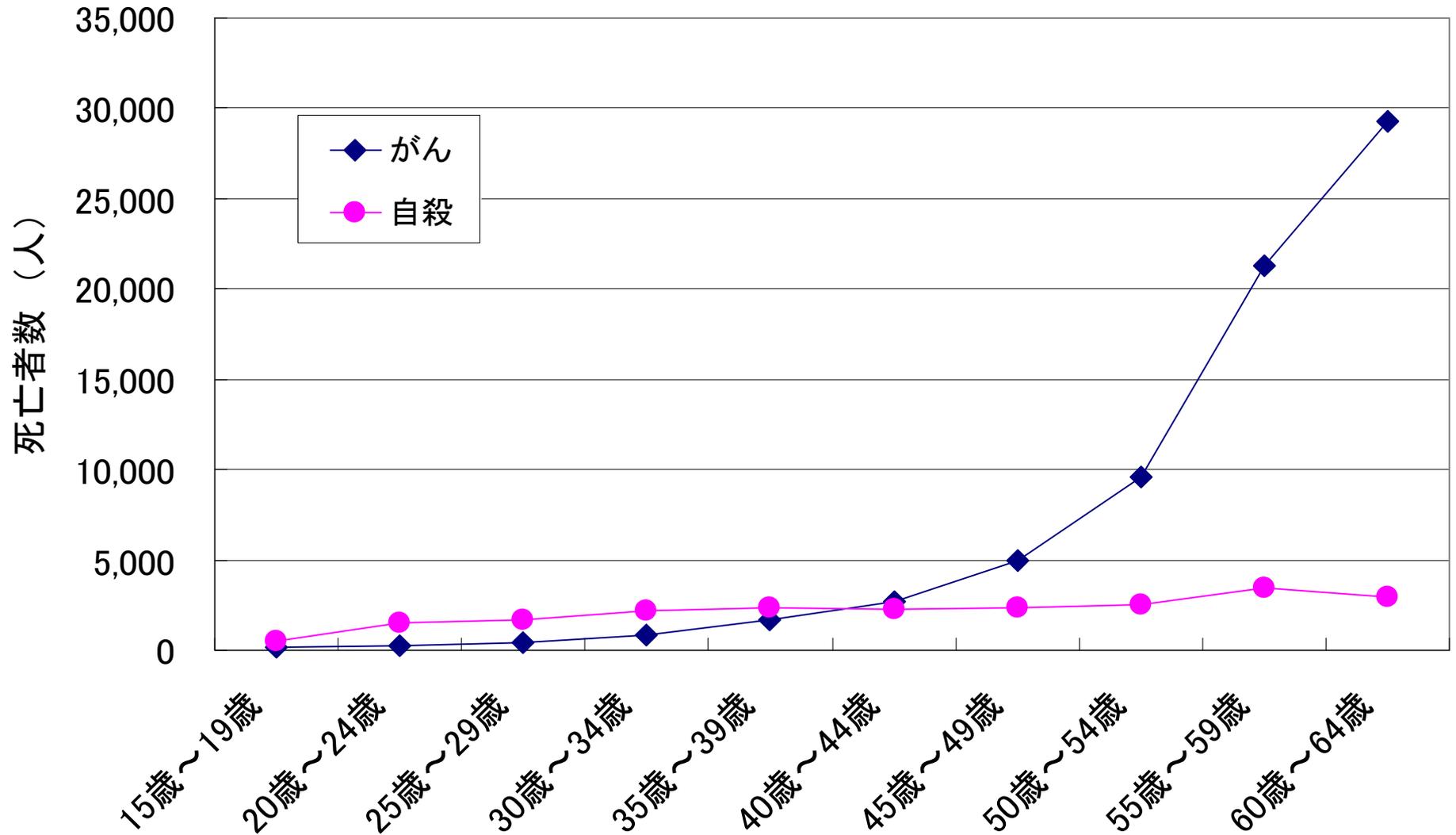


# がん別比較 (患者数/5年相対生存率/死亡者数)



【資料】患者数:「平成20年患者調査」(厚生労働省)  
 5年生存率:「がんの統計'09」:地域がん登録における生存率(1997~1999年診断例)(財団法人 がん研究振興財団)  
 死亡者数:「平成20年人口動態調査」(厚生労働省)

# 年齢別死亡者数（がん vs 自殺）（2008年）



【資料】「平成20年人口動態調査」（厚生労働省）

# 原因・動機別にみた自殺者数・割合 (2007年)



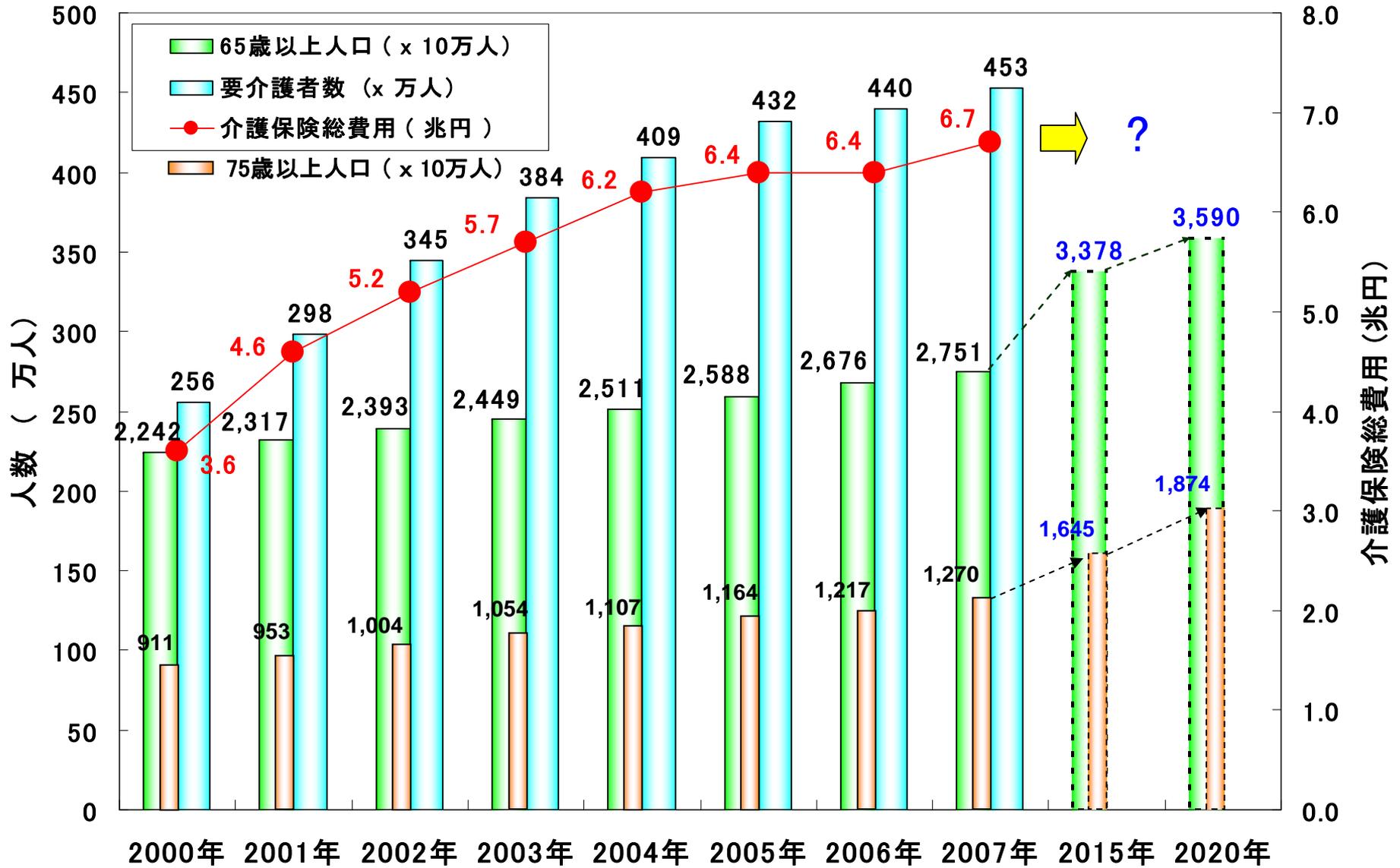
	総数	原因・動機 特定者	原因・動機 不特定者
実数 (人)	33,093	23,209	9,884
構成割合 (%)	100	70.1%	29.9%

	家庭問題	健康問題	経済・ 生活問題	勤務問題	男女問題	学校問題	その他
実数 (人)	3,751	14,684	7,318	2,207	949	338	1,500
原因・動機 特定者に対する割合 (%)	16.2%	63.3%	31.5%	9.5%	4.1%	1.5%	6.5%

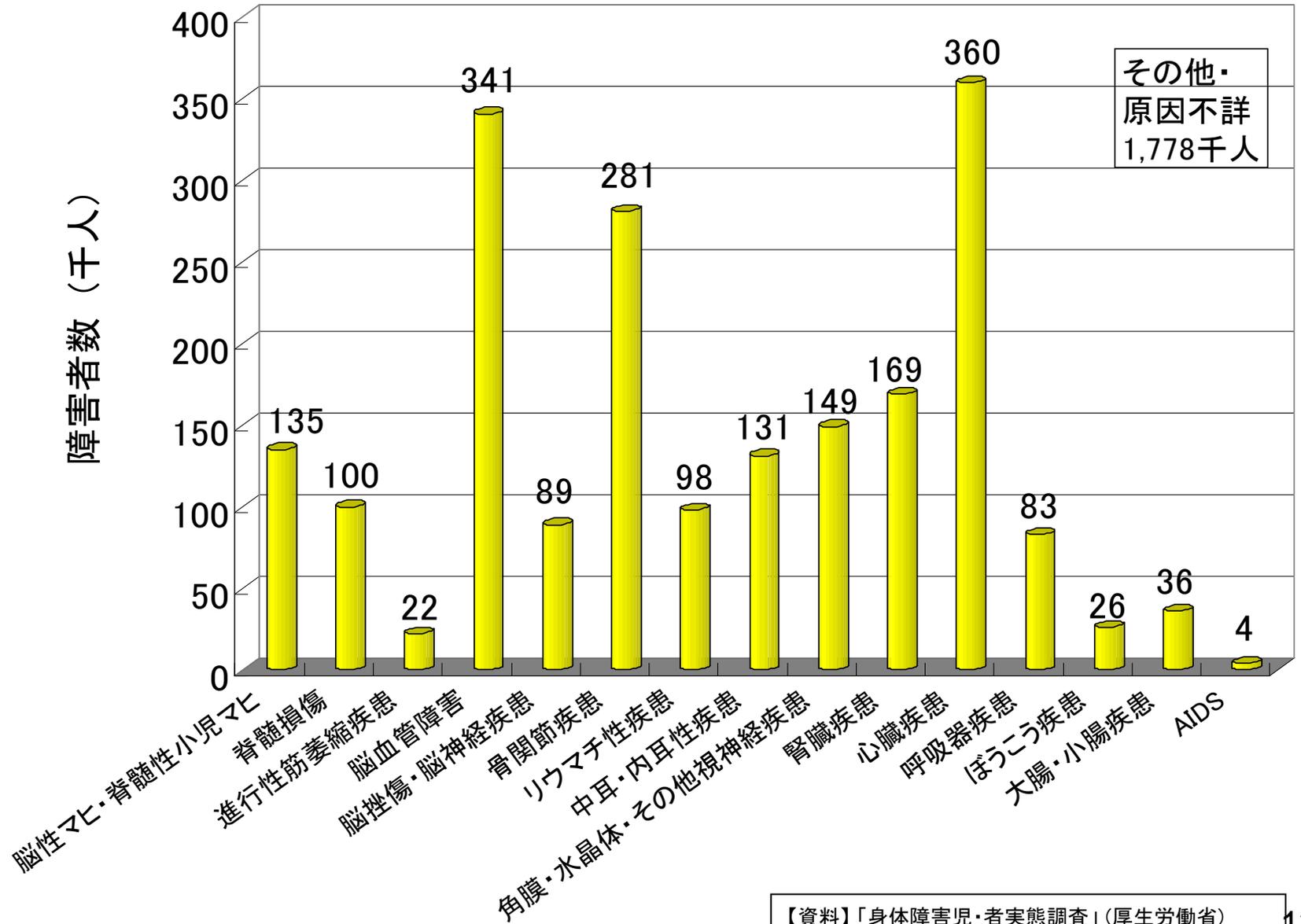
資料： 警察庁生活安全局地域課 「平成19年中における自殺の概要資料」

注： 平成19年に自殺統計原票が改正され、遺書等の自殺を裏付ける資料より明らかに推定できる原因・動機を自殺者1目に付き3つまで計上することとされたため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者数(23,209人)とは一致しない。したがって、前年との単純比較はできない。

# 高齢者数と介護費用の推移

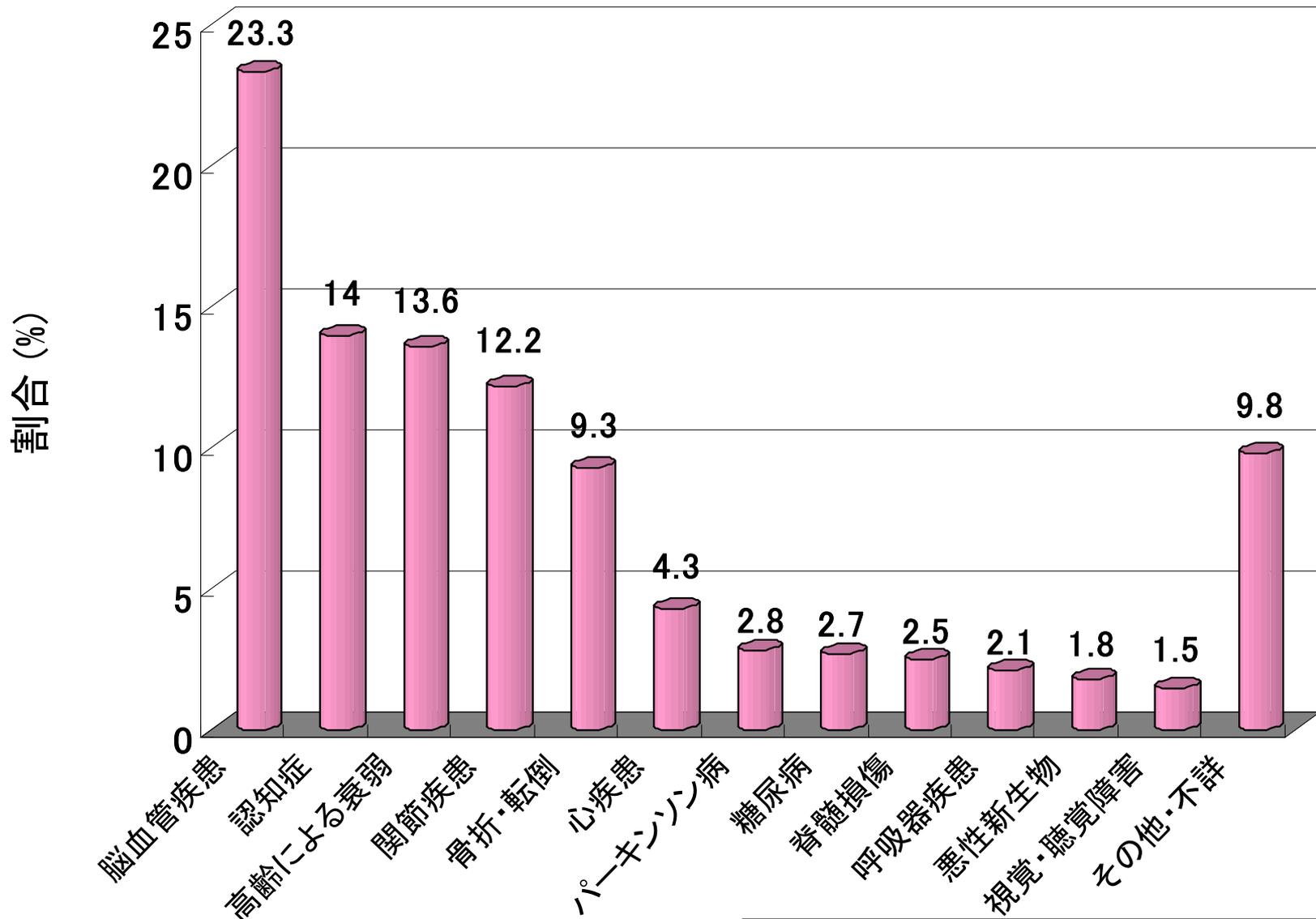


# 疾患別身体障害者数（2006年）



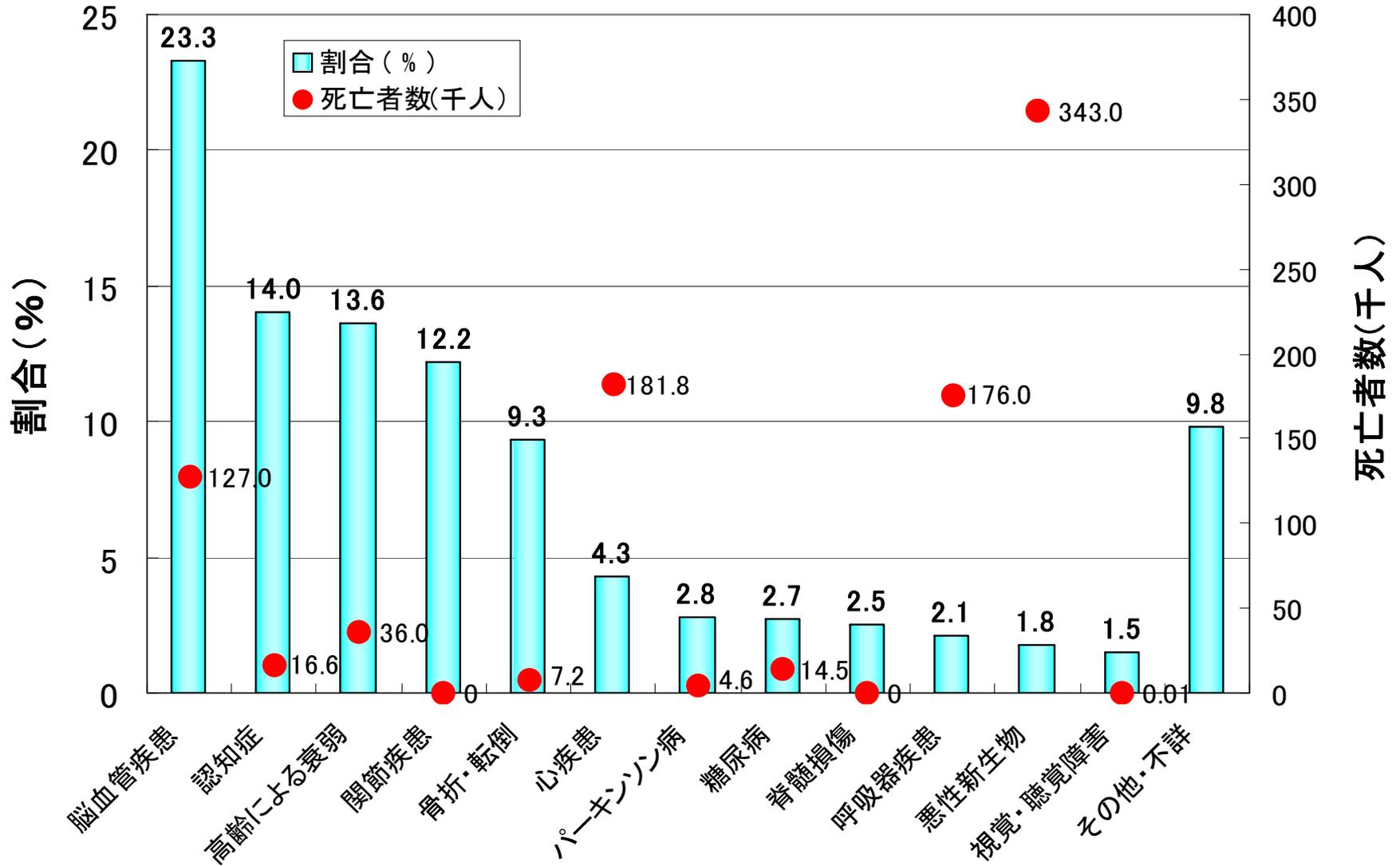
【資料】「身体障害児・者実態調査」（厚生労働省）

# 介護が必要となった原因 (2007年)



【資料】「平成19年度国民生活基礎調査の概況」(厚生労働省)

# 介護が必要となった原因疾患とその疾患による死亡者数 (2007年)





# 身体障害者の定義

## 【身体障害者福祉法】

《 第四条 》 この法律において、「身体障害者」とは、別表に掲げる身体上の障害がある十八歳以上の者であつて、都道府県知事から身体障害者手帳の交付を受けたものをいう。

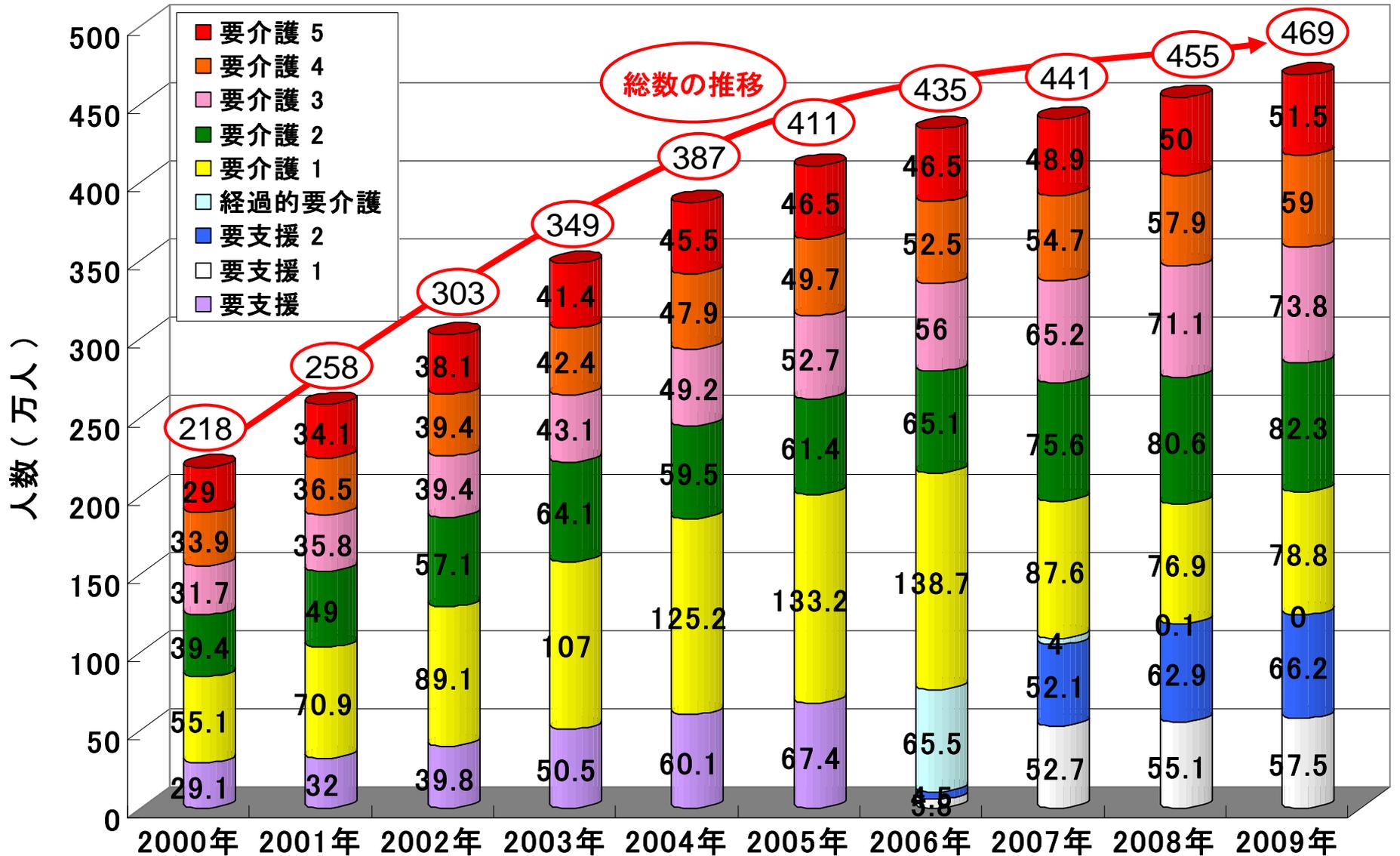
《 別表 》

1	視覚障害	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 両眼の視力(万国式試視力表によつて測つたものをいい、屈折異常がある者については、矯正視力について測つたものをいう。以下同じ。)がそれぞれ〇・一以下のもの</li> <li>2 一眼の視力が〇・〇二以下、他眼の視力が〇・六以下のもの</li> <li>3 両眼の視野がそれぞれ一〇度以内のもの</li> <li>4 両眼による視野の二分の一以上が欠けているもの、 で永続するもの</li> </ul>
2	聴覚又は平衡機能の障害	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 両耳の聴力レベルがそれぞれ七〇デシベル以上のもの</li> <li>2 一耳の聴力レベルが九〇デシベル以上、他耳の聴力レベルが五〇デシベル以上のもの</li> <li>3 両耳による普通話声の最良の語音明瞭度が五〇パーセント以下のもの</li> <li>4 平衡機能の著しい障害、 で永続するもの</li> </ul>
3	音声機能、言語機能又はそしやく機能の障害	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 音声機能、言語機能又はそしやく機能の喪失</li> <li>2 音声機能、言語機能又はそしやく機能の著しい障害で、永続するもの</li> </ul>
4	肢体不自由	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 一上肢、一下肢又は体幹の機能の著しい障害で、永続するもの</li> <li>2 一上肢のおや指を指骨間関節以上で欠くもの又はひとさし指を含めて一上肢の二指以上をそれぞれ第一指骨間関節以上で欠くもの</li> <li>3 一下肢をリスフラン関節以上で欠くもの</li> <li>4 両下肢のすべての指を欠くもの</li> <li>5 一上肢のおや指の機能の著しい障害又はひとさし指を含めて一上肢の三指以上の機能の著しい障害で、永続するもの</li> <li>6 1から5までに掲げるもののほか、その程度が1から5までに掲げる障害の程度以上であると認められる障害</li> </ul>
5	心臓、じん臓又は呼吸器の機能の障害その他政令で定める障害	心臓、じん臓又は呼吸器の機能の障害その他政令で定める障害で、永続し、かつ、日常生活が著しい制限を受ける程度であると認められるもの

## 【身体障害者福祉法施行令】

政令で定める障害	<p>法別表第五号に規定する政令で定める障害は、次に掲げる機能の障害とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一 ぼうこう又は直腸の機能</li> <li>二 小腸の機能</li> <li>三 ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能</li> <li>四 肝臓の機能</li> </ul>
----------	--

# 要介護度別認定者数の推移



# 要介護認定における一次判定



直接生活介助	入浴、排泄、食事等の介護
関節生活介助	洗濯、掃除等の家事援助等
問題行動関連行為	徘徊に対する探索、不潔な行為に対する後始末等
機能訓練関連行為	歩行訓練、日常生活訓練等の機能訓練
医療関連行為	輸液の管理、じょくそうの処置等の診療の補助等

要支援 1	上記5分野の要介護認定等基準時間が25分以上32分未満またはこれに相当する状態
要支援 1	上記5分野の要介護認定等基準時間が32分以上50分未満またはこれに相当する状態
要介護 1	
要介護 2	上記5分野の要介護認定等基準時間が50分以上70分未満またはこれに相当する状態
要介護 3	上記5分野の要介護認定等基準時間が70分以上90分未満またはこれに相当する状態
要介護 4	上記5分野の要介護認定等基準時間が90分以上110分未満またはこれに相当する状態
要介護 5	上記5分野の要介護認定等基準時間が110分以上またはこれに相当する状態

# 疾患障害別に見た”罹患率の低下、治癒率の向上、QOLの向上”について



	感染症	悪性新生物	糖尿病	精神及び行動の障害	神経系疾患	高血圧性疾患	心疾患	脳血管疾患	呼吸器系疾患	消化器系疾患	(関節リウマチ) 骨関節疾患	腎尿路系の疾患	要介護	
													認知障害	運動障害
罹患率の低下	○	○	◎	○	○	◎	○	○	○	○		◎	◎	◎
治癒率の向上	◎	◎					◎	◎	◎		(◎)			◎
QOLの向上	要介護			◎	◎			◎			◎			
	身体障害						◎	◎			◎	◎		